

# 開 Open your mind, 成 Be part of the world!



市立札幌開成中等教育学校 IB研究部 国際交流チーム Newsletter

No. 8

December 25, 2018

今後の予定

豪州科学奨学生 国際科学学校募集	校内×切 12/25(火)
日台文化交流青少年 スカラシップ2018 出場者募集!!	×切 1/15(火)
AIG高校生外交官 渡米プログラム	校内×切 1/23(水)
第5期トビタテ!留学 JAPAN申請書類	校内×切 2019年 1/23(水)
JENESYS タイ訪問団14人来校 交流予定です	2019年 1/23(水)

## ★トビタテ! 説明会 大盛況!

12月8日(土)、校内で「トビタテ! 留学JAPAN」についての説明会を実施しました。参加者100名を超える大盛況で、海外留学に対する皆さんの関心の高さがひしひしと感じられました。説明会では、今年度「トビタテ!」で海外研修をしてきた5年Mさん(フランス・スイス)、5年Yさん(米国フロリダ)、4年H君(オーストラリア)の3人が、トビタテ!に向けてどのように取り組んだか、実際の体験を交えて伝えてくれました。次に3つの留学エージェントから、今年度のトビタテ!の概要、出願手順や、留学の心構えなどを説明していただきました。何のために何をしに海外へ飛び立ちたいのか、しっかりと考えて、自分で調べ、自分でエントリーシートを書いていくことが求められます。たとえ「トビタテ!」に採用されなくても、自分のやりたいことがきっと見えてくるはずですよ。

トビタテ! 留学JAPANへ奨学金申請希望者は、**校内×切 1/23(水) 申請書類を全て整えて、森秀樹先生へ。**  
**トビタテ!のホームページをよく読み、あなたの熱意を申請書に込めよう!** \*新4年(現3年)のアカデミック・テイクオフ希望者は4月が×切です。

## ★公募!! 日台文化交流青少年スカラシップ2018 公募!! 中高生対象~5泊6日の台湾研修旅行のチャンス~

日本と台湾の架け橋となる若者の育成を目指すスカラシップ制度「第16回 日台文化交流青少年スカラシップ2019」では、日本語による作文を募集し、大賞・優秀賞受賞者を台湾研修旅行に招待します。台湾に興味のある人は挑戦してみたいか? どうか?

- 作品送付先: 〒135-0033 東京都江東区深川2-12-4-201(株)LSプランニング内  
日台スカラシップ事務局分室 TEL.03-5621-7850
- 前回報告書および作品集「第15回研修旅行の記録」は  
<http://www.businesss-i.jp/scholarship/> で閲覧できます。

**2018年**が終わります。「平成」が終わります。この1年間(4月から)で、開成を訪問した海外の方は、6月ベトナム(12人)、米国ポートランド(6人)、シンガポール(3人)、8月タイ(5人)、ベトナム(5人)、中国(6人)、台湾(2人)、12月シンガポール(3人)。こんなにたくさんの海外の皆さんに校内で出会えるのは、開成ならではのですね。保護者の皆様もホームステイの受入等、様々な面でご協力いただき、ありがとうございます。また、4月から開成から海外へ出かけて行った生徒は、5年海外研修の他に、SSH(タイへ7人)、個人長期(3人)、個人短期(19人)。有意義な時間を過ごせたことでしょうか。冬休みに個人的公的に国際交流の機会を持つ人もいます。海外へ出ることだけが国際交流ではありません。様々な機会をとらえて、国際的な視野を一層広げてくださいね。6年生の皆さん、開成での経験はいかがでしたか? 国際人としての更なる成長を期待しています。**皆さん、よい新年をお迎えください。**

## History of Christmas traditions

**The** first recorded Christmas celebration was in Rome in the year 336. Christmas celebrations are associated with a feast (large meal) and this tradition started in 379.

The practice of putting up special Christmas decorations started in the 15<sup>th</sup> century. In London every house was decorated by a wreath made of leaves. The tradition of having a Christmas tree, which has been adopted by non-Christian countries like Japan, was started in 16<sup>th</sup> century Germany.



The first Christmas cards were sold in London starting in 1843. These historical traditions come together to form the modern Christmas of gift giving, sending Christmas cards, feasting plus decorating homes and trees.

クリスマスの伝統について、イギリス出身のウォード先生が記事を寄せてくれました。最初のクリスマスのお祝いは4世紀のローマ、15世紀にデコレーションが始まり、クリスマスツリーは16世紀のドイツ、クリスマスカードは19世紀にロンドンで始まったそうです。



- 対象: 中高生
- 作文テーマ: 台湾に関すること (2000字以内、一人一点)
- 応募×切: 1/15(火) 必着
- 授賞式: 3/19(火) (優秀賞以上は都内の会場へ招待)
- 台湾研修旅行予定: 3/19(火)~3/24(日)
- 各自で応募し、応募した生徒は国際交流チーム藤本へ連絡ください。

## メキシコにおける環境保護 & スペイン語プロジェクト

昨年夏、メキシコでトビタテ！留学JAPANを利用したProject Abroadの環境保護活動に参加した6年TF君の体験談。学ぶことがいっぱい！

私は子供の頃から、いつか海外で生物に携わる仕事をしてみたいと思っていました。2016年に「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」という官民協働留学支援制度の存在の事を知ったとき、その夢は現実になるかもしれないと分かりました。早速応募をしようと思い、そこでProjects Abroadにはじめて出会いました。活動国はプログラムの内容が自分にとって魅力的なメキシコにしました。高校生プログラムは7月にありましたが、吹奏楽部のコンクールと日が近いので断念しました。私はその瞬間、一般プログラムでの挑戦を決意しました。つまり、周りは必ずしも高校生ではないということです。それに日本人は私しかいないということです。だからこそ今回の旅は私にとってとても新鮮なものになりました。

2017年1月、私は学校の研修でベトナム・ホーチミン市に行きました。初めての海外でした。その時点ではまだメキシコに行くことは決まっていませんでした。他にも同学年の友達は数名いましたが、ホームステイは私1人でした。ですがその2泊3日のホームステイで初めて、一度も日本人と話さない時間が生まれました。私はその体験を通じて、外国人と意思疎通するのは自分が思っているよりも簡単なのではないかと思い始めました。出国審査やパスポートの提示、外貨を使うなど初めての事はたくさんありましたが、学校の友達や先生がいるので、まるで修学旅行の延長線上の様な感覚でした。それで満足している自分がある反面、もっと自由に、梓にはまらない生活がしたいと願う自分も確かに居ました。それも、誰かの役に立ちながら。

それを全て実現してくれた Projects Abroad にはとても感謝します。17歳の夏、私はようやくメキシコへ飛びました。8月20日から9月4日の約2週間の留学の始まりでした。成田からメキシコはなんと13時間の旅でした。その長い長い旅を終えてメキシコの大地に降り立った時、空が、大気が、違うことを一瞬で理解して鳥肌が立ちました。ベトナムも熱帯でしたがメキシコも暑いです。一番の違いは14時間の時差です。親や友達に電話しようとしても、真夜中だから通じません。世界の裏側にいるのを実感しました。そして空港で困っていた私が他のお客さんに質問すると、すべての皆さんが快く教えてくれました。ひょっとしたらメキシコ人は日本人よりも心が広いのかもしれない。グアダハララハについての時も同じで、緑の服を着たスタッフの姿を見たときは思わず顔がほころびました。初日はホームステイで、欧米ならではの、靴をベッド以外履くことなど若干の違いはありましたが、環境はベトナムの時と同じで特に問題ありませんでした。

大きく変わったのは二日目以降で、その日からバスで活動場所へ行きました。ボランティアスタッフの車でのんびりグアダハララハへ向かうのかと思いましたが、予想に反して一人でバスに乗ることとなりました。手続きは全てボランティアスタッフのエドゥアルドさんが済ませてくれたので、後は乗るだけでした。バスに乗っている間も、スペイン語の歌のラジオがずっとかかっていた。しばらくすると降りる場所が不安になったので、何回か近くの人に聞きました。突然、バスが止まりました。マリアッチが乗ってきたのです。バスの中で歌い、演奏し、最終的には周りからチップをもらっていました。驚いたのは、これが決して観光客に見せている伝統芸能ではないこと。自分がメキシコにいるのを強く感じた瞬間でした。

私の部屋は白い小屋の中でした。個室のドアがなく若干開放的でしたが、逆に涼しく過ごせました。夜になると街灯がほとんどないため、あたりは暗闇に包まれます。ただ日本と比べて日が暮れるのは遅く、熱帯にいるのを実感しました。私の初めての仕事は、なんと夜3時から始まりました。誰もいない夜の海岸にボランティアスタッフと二人きり。赤いバギーカーに乗り、猛スピードで砂浜を進みながら野生の海ガメの卵を集めました。無論産卵シーズンでしたので、至極簡単に卵の巣を見つけられました。一つの巣に対して一つのビニール袋を使いました。何故なら、一つのカメの巣をそっくりそのまま安全な場所に移し替えるからです。そもそもなぜわざわざ自然のカメの卵を集めるかというと、放置した時に海鳥やアカハナグマに喰われたり、ハンターに盗られたりする可能性があるからです。問題はそのヒメウミガメが絶滅危惧種に指定されていることです。生まれる前から危険に晒されている不遇のウミガメを救うことが我々の使命です。正直私は、昔からこういう仕事にあこがれていました。

日中の仕事は、主にカメを保護する施設の中で行いました。大人になったカメが泳ぐ水槽に入って、カメの体を洗いました。またここにはワニとイグアナも飼育されています。私はイグアナの世話もしました。そして何とんでも一番の思い出は、本当に小さな生まれたばかりの子ガメを海に還すことでした。私は仲間たちと一緒に最後まで見送りました。その時私は地球に貢献していることに打ち震えて、自然と笑みがこぼれました。その笑顔はカメの旅立ちを祝福するとともに、こんなステージまで進むことができた自分に対してでした。私の夢は半分叶ったも同然でした。

その後、台風がメキシコに上陸しました。休日とは打って変わった天気荒れ具合に、私はつらくなりました。夜の卵探しも雨で全身がずぶ濡れになりました。当然ストーブもないので、風邪を引くのではないかと思いました。事実、こんなに大変とは思っていませんでした。そんな思いがこみ上げた瞬間、私は仲間のボランティアたちの姿に気づきました。雨に打たれ、風に吹かれながらも、海岸を歩み続けるその後ろ姿を見た時、私は自分のちっぽけさを気づかされました。人生の中で2週間という時間はほんのわずかです。少しダウンしても、勿体ない気がしました。休むなら日本に帰ってからしよう。そんな荒っぽい考えを引っ提げて大海原への道を再び歩き始めました。

この旅を通して、忘れてたくないこと。それは私だけの力でこの旅を成功させたわけではないということです。メキシコで出会ったたくさんの人たち、応援してくれた日本人たち、そして何より、「Projects Abroad」があったからできたことです。（抜粋）



## ★「シンガポール日本語スピーチコンテスト2018」入賞者、開成来校!! スピーチを披露!!

12月18日(月)、十勝シンガポール友好協会が招待したシンガポールの高校生3名が来校しました。彼女たちは日本語スピーチコンテストの入賞者。流暢な日本語で「いじめを乗り越え自分の姿を受け入れ前向きに歩む決意」「日本語を学ぶきっかけ」「引込み思案を克服し自分らしさを出すことの大切さ」を語ってくれました。また、小学校卒業時に一斉テストがあり、それに合格しないと中学に行けないというシンガポールの教育事情を聞いて、交流した開成の生徒が衝撃を受ける場面もありました。私たちが彼女たちのように第二言語を自由に操れるようになるよう、これからも努力していきましょう。(ホームステイを受け入れていただいたご家庭の方々に感謝いたします。)

